

五郎丸に影響与えた指導者の部下育成術(第9回)

正直者がビジネスを加速させる

2016.08.10

ラグビーワールドカップの大活躍で話題となった五郎丸歩選手。選手として基礎を固めた早稲田大学ラグビー蹴球部時代の監督が中竹竜二氏だ。五郎丸選手は、今でも影響を受けた指導者として中竹氏の名前を挙げる。中竹氏に結果を出す部下への指導法を学ぼう。

ビジネスにおいてスピードはなくてはならないものとなっている。今回の「部下に気づきを与える」言葉は、仕事のスピードを確実に上げるために役立つ。それは「正直者はバカを見ない」という言葉。スポーツと同じく仕事もフェアプレーを前提に行動すれば、シンプルにゴールに向かえるようになるからだ。

「正直者はバカを見る」。本当にそう信じている人は、想像以上に多い。しかし、私は「正直者はバカを見ない」と常々言っている。「だからルールを守ろう。成果に確実につながるから」と。

社会や組織のルールを守ることの大切さは、往々にして「人間教育」の文脈で語られる。車がほとんど通らない田舎の道でも、信号無視をしない。電車で高齢者が乗ってきたら席を譲る。ウソをつかない……。これらを「守れ」と言うとき、「いくらバカを見ても、人格を高めるためには必要だ」というニュアンスを背景に持つ。逆に言えば、そうした文脈を備えない限り、バカを見そうなルールを守れとは言い難い。

スポーツのフェアプレー精神も同様だ。すべてのスポーツで審判の力は絶大である。ルール違反があっても、審判が見ていなければペナルティーは取られないし、見ているときでさえ、審判が反則と判断しない限りはペナルティーにならない。サッカー選手が敵に押されたときなどに、大げさに転んだり、痛がったりするのは、審判にペナルティーを取ってもらうためのアピールである。

このように、「審判が見ていなければOK」となりがちなところを、フェアプレー精神が防御している。「バカを見ても仕方がない。スポーツマンは人としても素晴らしくあらねばならない」という思想が、その根底にある。

それに対する私の反論が、「正直者はバカを見ない」だ。社会や組織のルールを守るとは、バカを見るところか、成果を高めることにつながると確信している。… 続きを読む